

医療入門

(Introduction to Bed Side Learning)

【責任者/担当者】

- 〔兵庫医科大学〕鈴木 敬一郎 副学長(内部質保証・多職種連携教育・
ダイバーシティ担当)
〔医学教育センター〕蓮池 由起子 医学教育センター長、庄司 拓仁 講師
〔医学教育学〕柏 薫里 講師

【担当者】

- 〔慈恵会医科大学〕福島 統 教授(特別招聘教授)
〔松前町病院事業管理者〕山本 和利 氏(特別招聘教授)
〔関西医科大学〕西山 利正 教授
〔広島大学医学部〕蓮沼 直子 教授(特別招聘教授)
〔国立民族学博物館 人類基礎理論研究部〕平野 智佳子 助教
〔大村病院〕森村 安史 氏
〔上ヶ原病院〕大江 与喜子 氏
〔作家〕松本 順司 氏
〔兵庫県医師会〕空地 顕一 会長
〔COML代表〕山口 育子 氏
〔NPO法人 Future Code 代表理事〕大類 隼人 氏
〔神戸百年記念病院〕福島 豊実 氏
〔健康医学クリニック〕大柳 光正 院長
〔輸血・細胞治療センター〕吉原 哲 講師
〔超音波センター〕飯島 尋子 教授
〔心理学〕室井 みや 教授
〔心臓血管外科学〕山村 光弘 講師
〔大阪医療刑務所〕市川 昌孝 氏
〔医療コーディネーター〕米澤 敦子 氏
〔遺伝学〕大村谷 昌樹 主任教授、吉川 良恵 准教授、
覚道 真理子 非常勤講師
〔遺伝子医療部〕澤井 英明 教授
〔臨床検査医学〕宮崎 彩子 准教授
〔兵庫医科大学〕玉置 知子 客員教授(名誉教授)
〔医学教育センター〕中島 弘 特別招聘教授、高橋 優三 客員教授、
西村 理恵 非常勤講師

【目的】

臨床実習に臨む前に、医療者としての基盤を構築する。医療と社会との関係を把握し、従来の基礎医学や臨床医学の知識だけでなく、医療コミュニケーション、危機管理、チーム医療、患者さんの気持ち、行動学、臨床心理学、医療における男女共同参画、臨床研究、研究者倫理、国際保健、アンガーマネジメント、医療人類学、予防医学、性の多様性、医療コーディネーターなど幅広い角度から医療について考える。また臨床ゲノム医学についても学修する。

【科目キーワード】

「コミュニケーション (communication)」 「危機管理 (crisis management)」 「チーム医療教育 (inter-professional education)」 「行動学 (behavior science)」 「臨床心理学 (clinical psychology)」 「男女共同参画 (gender equality)」 「臨床倫理 (research ethics)」 「国際保健 (global health)」 「アンガーマネジメント (anger management)」 「医療人類学 (Medical anthropology)」 「予防医学 (preventive medicine)」、 「性の多様性 (Sexual diversity)」、 「医療コーディネーター (medical coordinator)」 「ゲノム (Genome)」 「DNAの構造と機能 (The structure and function of DNA)」 「エピジェネティクス (epigenetics)」 「家系図 (family tree, pedigree)」 「多型 (polymorphism)」 「発がん遺伝子 (oncogene)」 「オーダーメイド医療 (order-made medicine)」

【到達目標(アウトカム)】

- 良好な医療コミュニケーションの重要性を説明できる。
- 医学史、本学の歴史を概説できる。
- チーム医療とグループダイナミクスの医療における重要性を説明できる。
- 医療と社会との関わりと考え方の変化を概説できる。
- 宗教と医療の関りについて概説できる。
- 行動学、臨床心理学について概説できる。
- 医療における男女共同参画の意義を説明できる。
- 疾病・障害がもたらす生活への影響を説明できる。
- より良い療育生活を支えるためのネットワーク構築について説明できる。
- 海外の医療の状況と国際保健の在り方を説明できる。
- 研究者倫理、COI などについて概説できる。
- 卒後研修制度・マッチングについて概説できる。
- 代替医療について概説できる。
- 地域医療の実際、地域医療政策、医師会の役割を概説できる。
- アンガーマネジメントの基本を説明できる。

- 医療における医療人類学の重要性を説明できる。
- 予防医学、健康診断の意義と重要性を説明できる。
- 性の多様性を理解し、対応を概説できる。
- 医療コーディネーターの仕事を通じて患者さんの気持ちを理解する。
- 遺伝子の基本的な構造、複製、発現調節などを説明することができる。
- 遺伝子変異や染色体の異常について説明することができる。
- 遺伝子変異や染色体異常の検出方法について説明することができる。
- 分子の異常と疾患が発症するメカニズムを説明することができる。
- ゲノムの特性に基づく倫理的な問題点を説明することができる。

【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・安心・安全な医療に強い使命感と自律性を有し、優れた協調精神を持ってチーム医療の一員として社会の福祉に奉仕できる良医となるべき素養を有している。
- ・医療を取り巻く社会経済的動向を把握し、地域医療の向上に貢献するとともに、地域の保健・医療・福祉・介護および行政等と連携協力できる。
- ・人文社会科学を含む幅の広い教養と国際性を身につけ、海外からの情報を積極的に利用できる語学力を有し、国際保健に貢献できる
- ・人体や疾病に影響を与える社会的な要因や背景について理解し、支援扶助の社会的仕組みについて理解している。
- ・豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識を有し、人の命と健康を守り、社会の福祉に奉仕する医師としての職責を自覚し、地域並びに母校への帰属意識を有している。
- ・患者およびその家族の人権を守り、医師の義務や医療倫理を遵守するとともに、患者の安全を最優先し、患者の権利と生命の尊厳を守ることができる。
- ・人間の多様性を理解し、周囲の人々への温かい眼差しを持ち、共感できる豊かなコミュニケーション能力を有している。
- ・患者の痛み、苦しみ、悩みと機能障害を含め様々なハンディキャップを理解し、常に患者中心の立場に立つことができる。
- ・医学・医療の進歩と改善に資するために研究を遂行する意欲と生涯にわたり自己研鑽を続ける態度を有し、同僚・後輩への教育に労を惜しまない。
- ・患者の持つ様々な問題点を科学的かつ統合的に捉え、的確に判断し解決できる応用力と問題解決能力を有している。
- ・患者の持つ様々な問題点を科学的かつ統合的に捉え、的確に判断し解決できる応用力と問題解決能力を有している。
- ・人体の構造、機能および異常や疾病とそれらの原因、病態、診断、治療に関する基本的な知識ならびに様々な疾病に対する適切な治療法を身につけている。

【概要ならびに履修方法】

各方面の専門家を招聘し、講義が中心である。一部は参加型教育を行う。

【準備学習ならびにそれに要する時間】

講義予定のトピックスについて、自主的に新聞、書籍などに目を通し、予備知識を蓄えること。
時間は指定しない。

【成績の評価方法・基準】

試験、レポート(感想文)、出欠、講義中の態度などを総合評価する。特別講義の欠席は減点する。レポート(感想文)は評価し、点数化する。これらは再試験でも適用される。

特に、山口育子氏、米澤敦子氏の講義は必ず出席のこと。欠席の場合は定期試験・再試験受験を認めず不合格とする。その際の点数は出席、授業態度、レポートなど勘案し 44 点、54 点、64 点のいずれかとする。止むを得ない事情で欠席の場合は、ビデオによる補講を指定した日時で一度だけ行う。遅刻、私語、居眠り、他の作業を行うなどの態度不良は不合格または大幅な減点を行う。

また、EQ テストは必ず受験すること。未受験の場合は不合格にする場合がある。

【学生への助言】

講師の話を真摯に傾聴し、積極的に質問すること。

【フィードバック方針】

優れた感想文、あるいは問題のある感想文はコメントをつけて返却する。

【オフィスアワー】

多くの講師によるオムニバス形式のため設定しない。

【受講のルール、注意事項、その他】

静粛にし、真摯な態度で講義を受けること。

一部は関西学院大学交流科目である。

講義回数は出席を確認した回数とする。すなわち特別講義などで 2 時限予定されていても、1 回しか出席を取らない場合は、1 回と計算する。

なお、この科目は医師となる資質を涵養し、その成長を評価するための科目である(Fitness to Practice)。この科目外であっても医学生に相応しくない行動、態度があると思われる場合は、教務委員会等における審議を経て、受講不可もしくは不合格とする場合がある。

【教科書】

多くの講師によるオムニバス形式のため指定しない。

【参考書】

多くの講師によるオムニバス形式のため指定しない。

【連絡先】

教育研究棟 3階 医学教育センター